

練馬区立旭町小学校 学校だより 7月号 平成26年6月30日発行 校長 道山 正史



# きらめく風

すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

## 応 援

旭町小学校長 道山 正史

6月の第2土曜学校公開には大勢の方にお越しいただき、ありがとうございました。また昨年度の音楽会を2学年ごとの音楽発表という形で行うことにしましたが、形はともあれ、子供たちが一生懸命歌い、合わせ、演奏する姿は何より尊いことだとあらためて感じました。2年生と5年生の子供たちへの皆様の温かい応援、拍手に感謝申し上げます。

さて、サッカーのFIFAワールドカップに出場した日本は、残念ながらグループリーグで1勝もできずに敗退しました。メディアはいろいろなことをかき立てたり、批判したりしますが（それがメディアの仕事です）、まずは必死になってがんばった代表選手や監督・コーチ・スタッフにはねぎらいの気持ちをもちたいと思います。確かに本大会での結果はその期待に比べ少し残念だったような気もします。私はサッカーはやる方も見る方も素人ですが、直前のFIFAランキングで日本はグループリーグ中最下位だったということも知っています。でも以前に比べればいぶんと世界でも名のあがるプレイヤーが増えてきたことは事実です。それだけに期待値も当然上がり、好成績を夢見ることは決して冒険ではない、そういうチームを応援することができた、ワクワクさせてもらった、そのように私は思うのです。

この世の中、単なる盛り上がりだけでやってしまうようなことが多くなりましたが、そうではなく、真剣に祈りながらとでも言えるような静かな応援が必要なときがあります。きっとそういう人が多ければ多いほどチームは成長し、徐々にでも、紆余曲折があっても、強くなっていくのです。これからの代表チームに必要なものはまさにこれだと思います。もちろんチーム自体は分析と方向性を示さねばなりません。

旭町小学校も、保護者や地域の方々の学校を応援して下さる気持ちをことあるごとに感じるができます。この三位一体の関係が強く良好であればあるほど、この町を愛し、学校を愛する地域の子供が育つのだと思います。そのようにして育った子供が大人になり、この町と学校を支えてくれるのです。